

Ⅲ. 財務状況

1. 平成26年度の財務状況

高野山学園における平成26年度の財務状況において、特筆すべき点は、特定資産としての有価証券を売却し、特定預金へ繰入を行なったことである。これはこの十年弱の間有価証券として保有してきた資産を売却して資金とし、流動性を増したことを示している。平成26年度は学生生徒納付金収入は前年度より2千万円ほど増加したものの、消費支出超過額においては、その状況が改善されているとは言えない。

(1) 資金収支計算書

①資金収支計算書の概要

■資金収支計算書について

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に関するすべての収支の内容、および支払資金の顛末を明示する計算書類である。30ページの資金収支計算書では、平成25年度決算と平成26年度の当初予算および平成26年度第2次補正予算、さらに平成26年度決算を対比する形で表している。

②平成26年度の財務状況

■資産売却収入とその処理

平成26年度決算においては先に述べた有価証券を現金化し、資金として流動性を強化した。その結果、本学園の厳しい経営状況を反映して、負の資金調整勘定の額が増加した。平成26年度の有価証券の売却を受けて、収支の状況の改善の努力が望まれる。

(2) 消費収支計算書

①消費収支計算書の概要

■消費収支計算書について

消費収支計算書は、当該会計年度における消費収支の均衡状態と内容を明確にする、企業会計における損益計算書に当たるものである。その意味では、単年度の損益（赤字/黒字）をうかがう上での指標となる計算書である。31ページに掲載した消費収支計算書では、平成25年度決算と平成26年度の当初予算および平成26年度第2次補正予算、さらに平成26年度決算を対比している。

②平成26年度の財務状況

■消費収入と消費支出の動向

平成26年度決算では、平成25年度決算と比して、消費収入は1億3000万円の増加、一方消費支出は3億3000万円の増加となっている。この点については、有価証券売却に資産処分差額の計上が大きな影響を与えている。消費収入の増加には、補助金収入が大学での大幅な増加があり、学園全体でも増加している。学生生徒数の急激な増加が望めない中で、学園全体として補助金収入の増加に向けて改革に努めることが課題となるであろう。

(3) 貸借対照表

①貸借対照表の概要

■貸借対照表について

貸借対照表は、年度末の財政状態を、資産・負債・正味財産（基本金、消費収支差額）で表す。貸借対照表では、当年度末と前年度末での資産等の変動を対比している。

②平成26年度の財務状況

■資産の減少

平成26年度末では、その他の固定資産が4億6000万円減少している。この減少は、有価証券売却の影響によるものである。しかし、この有価証券の現金化による資金の流動化はある面で本学園の強みであり、この強みを活かしての今後の中長期計画の作成が必要となるであろう。